

《別 紙》

1. 開催年月日 令和7年1月20日(月)開催
2. 開催場所 エフエム西東京 1階 会議室 (東京都西東京市芝久保町5-8-2)
3. 出席委員
委員総数 7名
出席委員 2名 下川隆委員長 松川紀代実委員
欠席委員 5名 賀陽智之委員 村田志保委員 野澤秀夫委員
山本恒安委員 小松真弓委員

放送事業者側回答者

佐藤芳幸(代表取締役) 大塚誠(統括部長 局長) 青木崇(制作室ディレクター)

4. 議 題

審議番組：11月30日(土)ウィークエンドボイス5週目休止枠を活用した特別番組
特別番組『our own countdown』
ウィークエンドボイスが5週目休止枠を活用した特別番組として『our own countdown』を放送。
熱量のこもったその道のマニアによる、『私たちだけ』のカウントダウン番組様々なゲストに
熱量のこもった『好きなもの』について伺います。

5. 議事の概要

あらかじめ送付した番組を録音した音声を聴いていただき審議。

6. 審議内容

審議委員意見

- ・マニアックな感じがあり、トークも熱く語られていたのが印象的だった。
- ・メールやFAXを番組中いただき途中読んでもらうのがあってもよかったのでは。
- ・ファンの方は楽しく聞けたのではないかと。馴染みのない曲だが楽しく聞けた。
- ・知らないグループはグループの紹介よりも先に音楽を聴いてしまうため、音楽を集中して聴いていると紹介を聞くのがあまり耳に入ってこなかったためもう少し音楽とグループの説明を分けていただければよかった。
- ・情報や防災の番組が続く中、一息つくには聞きやすい番組だった。
- ・ZONEはsecret baseが有名だが、それ以外の曲を知らなかったので聴けてよかった。
- ・曲が流れている間はトークがない方が、どちらも集中して楽しめるかもしれない。どちらを聞こうか迷ってしまう場面があった。
- ・ファンの方ならではの情報が知れてとても興味深かった。
- ・全体としてとても明るい雰囲気、楽しい内容で引き続き聴いてみたいと思える番組だと思える音楽好きのリスナーには特に楽しめる内容だと感じた。
- ・パーソナリティの方が早口で話されている場面があり、情報を追うのが難しい部分があった。
- ・「ザ・イエロー・モンキー」を「イエロー・モンキー」と呼称していた場面が2回ほどあり、正式名称に配慮するか、通称「イエモン」と略すほうが良いのではないかと思った。
- ・リスナーの年齢層を考慮したらもう少し幅広い層に共感されやすいミュージシャンやバンドを選んでもよかったのではないかと思った。
- ・CHAGE and ASKAについて、自分の年代的に当時よくテレビから流れていた曲や話は、懐かしく楽しく聴けた。また、同時当たり前だった「カップリング」が今は使われていない(存在しない)ことについて、確かにとうなずいてしまった。
- ・CHAGE and ASKAの昔からのファンだった方、ここ3年で好きになった方、というポジションで番組の進行や話題を提供するバランスは構成上とても良いと思った。
- ・リスナーにとって曲を聴くと、自分の生きてきたその時代を振り返る時間が持てるラジオ番組の力ってすごいなと、改めて感じた。
- ・ZONEはあまり知らなかったもので、2曲目の歌詞が面白かった。曲の紹介の中でバンドの成り立ちなど話してくださるのを聞き、教えてもらった感がある。
- ・このようなマニアックな番組は賛否が分かれると思うが、コミュニティ放送局だからできる「強み」だと思う。音楽を届ける番組作りは、ラジオとしては難しいことはないと思う。10人いたら10人の好みや思い入れ、年代などもあり多様な切り口の番組を企画しやすいと感じた。
- ・マニアックを突き詰める内容で企画したら面白いと思う。
- ・音の強弱は気にならず、それぞれの好きなことを熱く語っており好感ももてた。
- ・ぜひこれからも勇気をもってこのようなマニアックな番組を作っていただきたいと思った。

局の回答

- 以前生放送の番組は4週目まで放送をし、5週目は休止の体制をとっていたが、ラジオは継続性が重要ではないかと思われ、なるべく毎週放送するようにしてきました。ただ音楽を流すだけではなく、普段その枠を聞いているリスナーに向けて何か特別な内容でお送りしたいと思い、企画制作した番組です。この企画は今回で第3弾となり、今回は出演者それぞれの思い入れのあるアーティストの曲を熱く語ろうというコンセプトでこの番組を行いました。今回この番組を通して好きなこと熱さを持ち、話をするにより熱量を感じていただく事の大切さまた思いや気持ちというものを言語化し人に伝えることがとても大事だと考えています。災害や訃報に触れる機会はメディアとして多くあると思っております。その際感想で終わるのではなく感じたことをきちんと人に伝える言葉にし、番組の構成の段階でも伝わりやすい構成というのはどのようにしたらいいのかを考え、それを伝える。今回番組を通して様々なご指摘をいただき初めて気づいた点もあり、人に伝わりやすい言語化・番組作りとはを改めて考え感じる事ができとてもいい機会をいただいたと思っております。今後またこのように5週目を特別番組として放送する機会があるかと思っております。その際はより皆様に熱量を伝えられる番組を企画していきたいと思っております。

7. 審議機関の答申又は意見に対してとった措置の内容及び年月日
なし
8. 審議機関の答申または意見の概要の公表
自社放送 事務所への備え置き、自社HPでの掲載
9. その他の参考事項
なし